

令和4年度教育事業「子ども地球探検隊」報告書

- 1 趣 旨 花山青少年自然の家と栗駒山麓・ゆざわの2つのジオパークの豊かな自然のもと、自然体験活動や見学等を通じて、自然の雄大さを感じ取り、自然の仕組みについて理解を深めるとともに、その保護や活用について考え、地域に根ざした環境教育の推進を図る。
- 2 主 催 独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立花山青少年自然の家
栗駒山麓ジオパーク推進協議会
- 3 後 援 宮城県教育委員会、栗原市教育委員会
- 4 協 力 湯沢市ジオパーク推進協議会、三陸ジオパーク気仙沼推進協議会

5 事業の概要

(1) 期 日

第1回 令和4年7月16日(土)～18日(月祝)【2泊3日】荒天のため中止

第2回 令和4年9月23日(金祝)～25日(日)【2泊3日】当初の計画より1泊増やして実施

(2) 参加者

① 参加対象 宮城・岩手県内の小学校4年生から6年生 25名程度

② 参加状況 参加総数33名(応募者数50名)

6 場 所 国立花山青少年自然の家、栗駒山麓ジオパーク、ゆざわジオパーク

7 講 師 栗駒山麓ジオパーク推進協議会 専門員 原田 拓也 氏
湯沢市ジオパーク推進協議会 専門員 伊藤 健太郎 氏

8 企画・運営のポイント

「地球のチカラ ～山の恵みとエネルギー～」をテーマに、“生きている”自然を体感する2回(合計5日間)にわたるプログラムである。

自然が“生きている”からこそ、私たちは自然から【恵み】や【エネルギー】を享受することができる。一方で、自然の活動は、時に【災害】として私たちの生活を脅かすこともある。栗駒山麓の山、川、大地、湯沢の地熱、そして、岩手・宮城内陸地震で起きた地すべり跡などから、“生きている”自然の姿を多面的に学ぶことができるように内容を構成した。また、栗駒山麓や湯沢に住む人々は、厳しい自然に対しても、知恵や工夫を重ね、向き合い、共生してきた。各ジオパークの専門員の協力を得ながら、自然の恵みや災害と人々の暮らしとの関わりや、地熱エネルギーを活用した環境にやさしい産業のあり方などについても学び、自分たちの暮らしやこれからの生き方についても考えることができるような活動を取り入れた。

それぞれの活動をつなぐために、ジオパーク全体マップ(以下、ジオマップ)を活用した。各活動の前にジオマップを提示して、見学するジオポイントの位置関係を押さえた。一日の最後には、ジオマップを用いた振り返りと、分かったことや疑問に思ったことなどを書く活動を行い、活動場所や地形と関連付けながら振り返ることができるようにした。

9 日 程 (変更後)

| | |
|--------------|--|
| 9/23 (金祝) | 花山青少年自然の家のプログラムである沢活動を通して、全身を使って自然に親しみ、花山の沢で見られる岩石について学んだ。ボランティアの企画によるアイスブレイクを行い、参加者同士の交流を深めた。岩石標本づくりでは、沢活動と関連付けながら、大地のつくりについて理解を深めた。 |
| 9/24 (土) | 栗駒山麓ジオパークを象徴する山である栗駒山トレッキングを通して、自然に親しみ、地形について学んだ。栗駒山麓ビジターセンターでは、展示資料やガイドによる解説で、栗駒山麓の風土や荒砥沢地すべりについて学んだり、「エムリバー」を用いて、川の成り立ちや防災・減災について考えたりできた。防災学習では、岩手・宮城内陸地震の際の災害状況や救助、復興の様子を知り、災害時の備えについて学んだ。ゆざわ事前学習(オンライン)では、山の恵みとエネルギーについて考え、翌日の見学コースやポイントをクイズ形式で楽しく学習できた。 |
| 9/25 (日) | ゆざわジオパークでは、小安峡大噴湯見学を通して、地熱エネルギーを体感したり、地形や大地の変化について学んだりした。栗駒フーズの見学を通して、地熱エネルギーの利用や環境にやさしい産業のあり方について学んだ。 |

10 活動の内容について

【9月23日（金祝）1日目】「国立花山青少年自然の家（沢活動、アイスブレイク、岩石標本づくり）」



【9月24日（土）2日目】「栗駒山麓ジオパーク（栗駒山トレッキング、栗駒山麓ジオパークビジターセンター）、国立花山青少年自然の家（防災学習、ゆざわ事前学習）」



【9月25日（日）3日目】「ゆざわジオパーク（小安峡大噴湯、栗駒フーズ）」



↑ z o o mによるゆざわ事前学習
(24日夜実施)

11 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：93.9% やや満足：6.1% やや不満：0% 不満：0%

(2) 参加者の声

- ・大地は、山の噴火で成り立っていたり、山があるから鉛などの鉱物がとれたりするので、山は人にとって大切な存在だということを知った。
- ・岩石標本づくりでは、海底火山と陸の火山の石の形が分かった。栗駒山麓ビジターセンターでは、実験で川が土をどんどん削っていくことや、土砂崩れがおきることがよく分かった。
- ・子ども地球探検隊に来るまでは、自然がこんなに大切だと分からなかったけど、参加して、自然の大切さが分かった。

(3) 成果

- ・栗駒山麓ジオパーク推進協議会の原田氏に全日程、湯沢市ジオパーク推進協議会の伊藤氏に3日目の帯同をしていただいた。岩石や地熱などについての専門的な解説だけでなく、自然と人々との関わりについても説明していただいたことで、参加者は、それぞれの事象や体験を自分たちの暮らしと関連付けて考えることができた。
- ・第1回が豪雨災害による中止であったため、ビジターセンターでの「エムリバー」による浸食・運搬・堆積の実験は、沢活動だけでなく、防災・減災の観点からも、参加者にとって、より実感をもった学びとなった。
- ・オンラインでゆざわ事前学習を行ったことにより、体験した活動をテーマに沿って振り返り、翌日の活動にスムーズにつながることができた。

(4) 課題

- ・第1回が中止となり、合計5日間の計画を、内容を再構成して3日間で実施した。そのため、荒砥沢地すべり見学や水田見学など、いくつかできなかったプログラムや、天候等により短縮して行ったプログラムがあった。今回は、急きょ伊藤氏にゆざわ事前学習を担当していただき、各活動をまとめ、テーマにつなぐことができた。やむを得ず再構成したり、短縮したりして実施する場合も、事業のテーマからぶれないように運営上の配慮をしたり、必要に応じて新たな活動や手立てを講じたりする必要がある。専門的知識のある方に全日程に帯同をしてもらい、全体を見通してコーディネートしてもらえば、よりテーマに迫ることができると考える。

担当：企画指導専門職 菊池 恵理